

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名	バウム			第三者評価受審年度	令和元年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和元年度)	改善計画 (令和元年度9月作成)	実施状況 (令和元年度10月時点)	実施状況 (令和元年度末時点)	
職員間の良好な情報共有を利用して、利用者支援の標準化への構築が期待される	今年度、職員の異動や入職により、事業所で必要としている業務水準にはまだ達していない。利用者支援に関しては施設長・統括リーダーが日々の業務から実践を通じて、その都度、指導している。また、日々のミーティング、毎週実施している職員会議でのケース検討等で情報共有を密にし、支援の標準化に取り組んでいる。	引き続き日々の実践やケース検討会議等を通して職員間の情報共有を行い、利用者支援の標準化を図る。	継続して情報共有を行うとともに、現場での指導を行っている。	職員の交代もあり、業務標準化が不十分となった。引き続き、現場で指導を行うことで、支援の標準化を図っていく必要がある。	
利用者一人ひとりの得意分野を把握し、現段階の工賃の維持・向上を図る取り組みが期待される	個々の能力、得意、不得意に応じて作業の担当を決め、得意分野を活かせるように取り組んでいる。ただし、納期や作業量との兼ね合いで必ずしも適材適所とはいかない時もある。出来るだけ、本人に合った作業を行うように努めている。	引き続き個々の利用者の能力や向き、不向きへの把握に努め、生産性の向上に努める。	個々の利用者の能力や向き、不向きへの把握に努め、作業に取り組んでいる。	利用者の向き、不向きは概ね把握出来ている。不得意な作業には自助具を使用し、作業効率の向上に取り組んだ。今年度の月額平均工賃は前年度を上回る結果となった。また、令和2年度は、視覚活用など個別支援の充実により、作業量増加、工賃向上を目指す計画である。	
利用者の将来の自立した生活を見据えた支援の充実が期待される	面談や相談では、社会的マナーの事や将来の仕事のことが中心となっている。GH、後見については、話題にあがることは少ない。	利用者、家族との面談などを通じて、本人や家族の意向を確認しながら、生活の場について、一緒に考えていくようにする。必要に応じて関係機関との連携を図る。	今年度初めて家族面談を実施し、利用者25名中希望した15名の家族と面談を行った。内4名については、生活の場の話題があがり、ショートステイの利用や将来GHに入居する希望などの聞き取りを行った。	面談ではグループホームへの入居や短期入所の利用等について緊急の希望はなく、早急に対応するケースはなかったが、一部ニーズの把握は行うことができた。今後面談を継続し、将来の生活ニーズの把握を進めていく予定である。	

※この様式は、「小平市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。